

社会その1 (4枚のうち)

12	受験番号
中	

次の問題文を読んで、後の問いに答えなさい。

皆さんは何着の服を持っていますか。たぶん、何着持っているか分からない人が多いのではないのでしょうか。しかし、服を何着も持ち、その日の天候や気分によって選べるようになったのは、人びとが衣服を身に着けるようになってからの歴史をみれば、そんなに古いことではありません。今日は、衣服の材料である布と糸が日本でどのようにつくられてきたのかに注目して、いろいろ考えてみましょう。

布は糸を織ってつくり、糸は原料となる繊維をより合わせて作られます。糸をつくることを紡績^{ぼうげき}と言い、大きく分けて二つの方法があります。一つは「紡ぐ」で、繭玉^{まゆだま}や綿花など繊維が絡み合った原料から糸を引き出すことを言います。もう一つは「績む」で、麻^{あさ}⁽¹⁾や藤などの植物から得た一定の長さの繊維をつなぎ合わせて、さらに長い繊維を作ると言います。

ここで16世紀末頃^{むい}に人々がどんな服を着ていたかをうかがわせる記録があるので紹介しましょう。この頃に少女時代を過ごした「おあむ」⁽²⁾と呼ばれた人の昔語りの文章です。彼女は、この話をしている17世紀の中頃には、もうおばあさんになっています。思い出話なので多少不正確な面があるかもしれませんが、16世紀末頃の状況とはそんなに違っていないでしょう。子どもたちを前にした彼女の姿を想像して下さい。

「さて、私が十三歳の時、衣類は手づくりの薄い服が一着あるだけだったのう。そのたった一着を十七歳まで着ていたから、すねが出て困ったものよ。せめてすねが隠れるほどの服が一着欲しかった。このように昔は不自由なことが多かった。今時の若者は、衣類も好きなものをあれこれ選んで、お金も使い、贅沢な^{ぜいたく}ことよ。」(『雑兵物語・おあむ物語』より。現代の言葉に直して要約してあります。)

おあむの父は、決して貧乏^{びんぼう}とは言えない侍^{さむらい}でしたが、その娘が服を一着しか持っていなかった理由は何でしょうか。おそらく、彼女の着ていた服が、麻糸で織られた布でつくられていたことと関係があると考えられます。麻の布は、江戸時代以前の日本では、最も一般的な^{いっぱんてき}なものでした。他の布でいうと、絹はすでに古代からありましたが、蚕の飼育の難しさや餌となる桑栽培^{さくわいばい}の大変さもあり、多くの人びとには縁遠い^{えんとう}ものでした。

その一方で16世紀以降、別の布が次第に目立つようになり、17世紀にはかなり一般的になっていきました。それは木綿のことですが、柳田国男^{やなぎたにくにお}という学者は木綿について、次のようなことを言っています。

「15世紀の末頃、木綿の種と栽培方法が本格的に日本に移入された。木綿は、糸を作るなどの作業が麻よりはるかに簡単であった。そのため支配者が欲するとか欲しないとかに関係なく、伊勢⁽³⁾でも大和⁽⁴⁾・河内⁽⁵⁾でも、瀬戸内海の沿岸でも、広々とした平地が綿の畑に変わっていった。綿の実が白くはじける季節には、急に月夜が美しくなったような気がしたことだろう。木綿は麻に比べて肌触りも良く、色も様々に染める事が容易であった。木綿の普及^{きふく}は人びとの暮らしにとっても大きな影響^{えいきょう}と変化をもたらしたのである。」(『木綿以前の事』より。内容を要約してあります。)

木綿が広まっていくことは、績んだ糸で織られた布が徐々に^{じょじょ}に廃れ、紡いだ糸で織られた布が世に普及していくことを意味しました。また長い目で見れば、人びとが自給的に布や服をつくる時代から、繊維工業が盛んになって、布や服を^{かひにゅう}購入することが当たり前^{あたりまえ}の時代へ変化する、最初の一步ともなったのです。

明治維新以降の日本の工業の発達の中で、繊維工業はその中心的な役割を果たしました。繊維工業の動向は日本の経済、政治、さらには外国との関係に大きな影響^{えいきょう}を与えるほどでした。また、繊維工業に従事している人は多く、厳しい状況の中でつらい目にあうこともしばしばでした。

第二次世界大戦前から石油などを原料とする化学繊維が生産されるようになり、戦後、その生産は拡大していきました。今や化学繊維の生産が木綿をはじめとする天然繊維を上回っていますが、こうした化学繊維の発達は私たちの生活や社会に大きな変化をもたらしました。

日本は、1980年代中頃までは衣類の輸出が輸入を上回っていましたが、1990年代以降国産品は国際競争力を失い、現在、衣類の多くは外国から輸入しています。

皆さんの着ている服の布や糸が、自宅で作られたものであることはもはやないでしょう。しかし衣服そのものは私たちにとって必要不可欠なものであり続けます。服や布や糸、原料に至るまで、すべて一国単位で考えることはできず、世界的な視点で考える必要があります。こうしたことから、現在の私たちの生活がどのように成り立っているのか、改めて考えるべきではないのでしょうか。

社会その2 (4枚のうち)

12	受験番号
中	

- (1) 麻：繊維を取る草の総称。主に大麻とカラムシの二種の植物を指す。
- (2) 「おあむ」：本名不明。漢字では「御庵」と書く。出家した女性の呼称で、男性の「お坊さん」に相当する。
- (3) 伊勢：現在の三重県の大部分。(4) 大和：現在の奈良県。(5) 河内：現在の大阪府の一部。

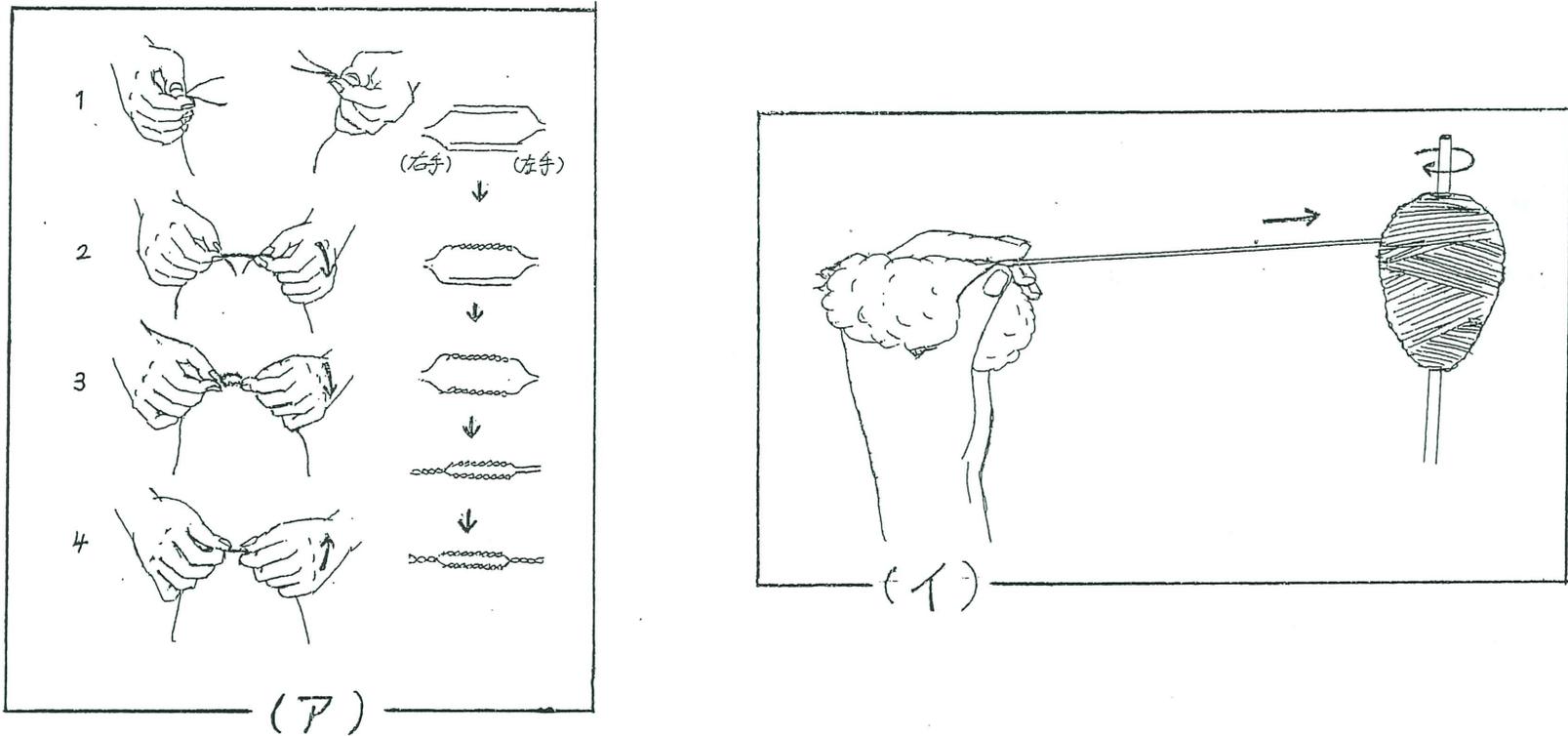
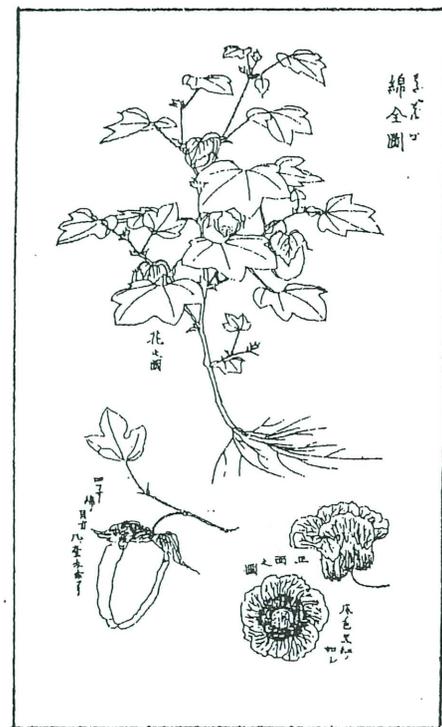
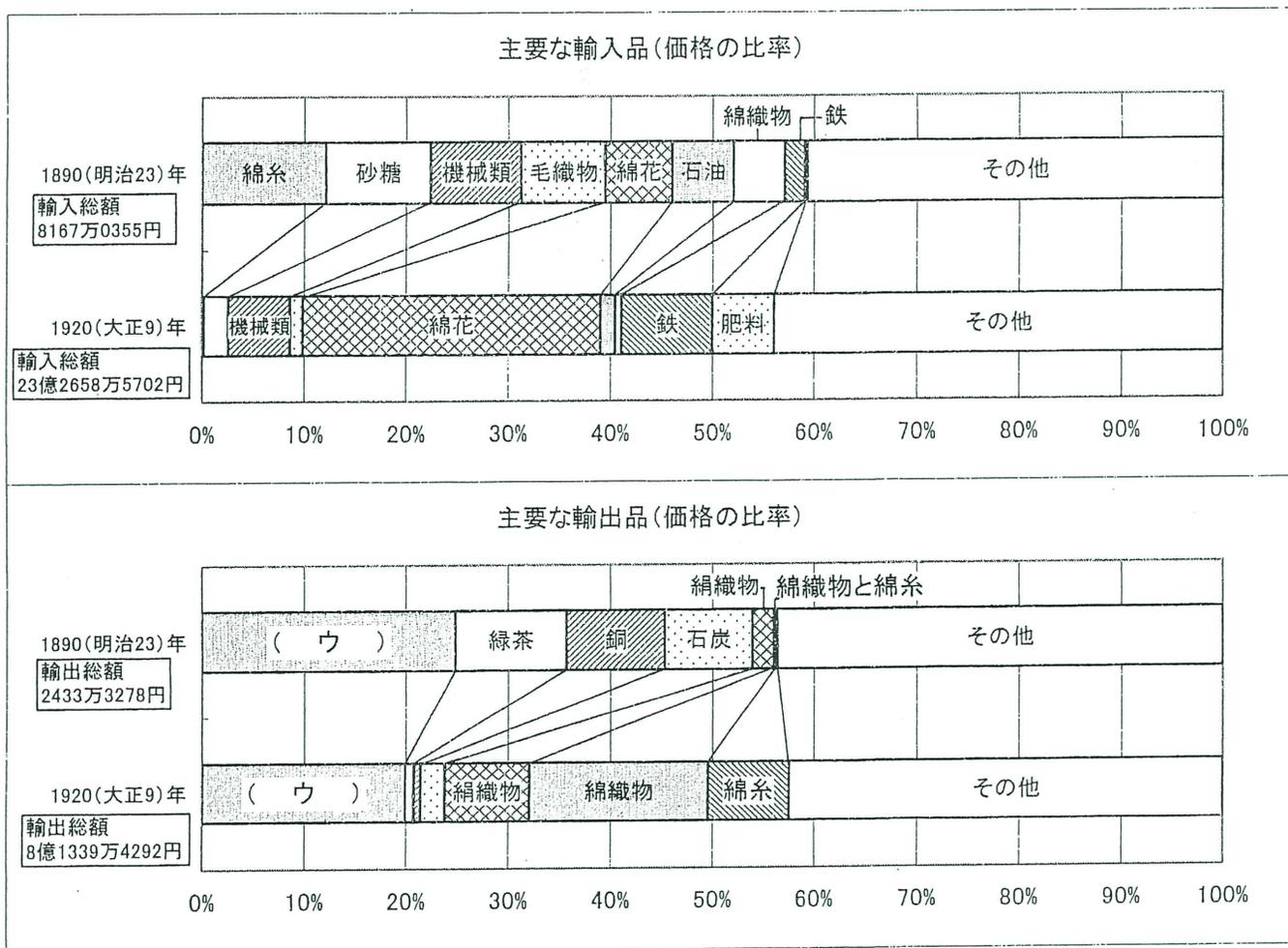


図1 糸の作り方



参考 木綿の絵
 (『紡織』日本評論社)

図2 1890年と1920年の日本の貿易額とその割合 (『日本貿易精覧』東洋経済新報社、より作成)

社会その3 (4枚のうち)

12	受験番号
中	

問1 図1の(ア)、(イ)のうち、「績む」を表しているのはどちらですか。正しいほうの記号を書きなさい。

問2

(あ) おあむの父は、1600年(慶長5年)の大きな合戦で敗れた石田三成の家臣でした。この大きな合戦の名称を答えなさい。

(い) おあむは、なぜ服を一着しか持っていなかったのでしょうか。問題文を手掛りに考えられる理由を書きなさい。

問3 木綿は麻に代わって普及していきましたが、問題文を手掛りにその理由として考えられることを書きなさい。

問4 江戸時代中頃の書物を見ると、木綿の生産が盛んな地域として、現在の大阪、兵庫、広島、三重、愛知の府県があげられています。下の地図上に、例にならってこれらの府県の位置を記入しなさい。



社会その4 (4枚のうち)

12	受験番号
中	

問5 日本では主に麻、絹、木綿が使われていましたが、日本以外の国ぐにでは毛織物も広く使われてきました。毛織物の原料は何の動物の毛を利用していますか。代表的な動物を一つあげなさい。

問6 図2のグラフを見て、次の(あ)、(い)に答えなさい。

(あ) グラフの中の(ウ)に入る適当な商品を書きなさい。

(い) 日本の繊維工業について、グラフから読み取れることを説明しなさい。

問7 1990年代以降、日本製の衣類が国際競争力を失ってしまった理由はどんなことが考えられますか。

問8 化学繊維の発達は工業やその他の産業にどのような影響を与え、また身近な生活をどのように変えたと思いますか。君の考えを書きなさい。